

「人生は一回きり」とよく言われます。

その大事な、失えば二度と戻ることのない、かけがえのない人生において、その終わりを迎えるときに、「もう後悔することはない」と納得できるためには、何が必要なのか、ずっと考えてきました。

その疑問に答えられる人は、結城さんでした。

初めての日本に来た三年前、高林先生のゼミで結城さんと出会いました。白い髪で、いつも穏やかで、微笑んで先輩方の発表に丁寧に意見を述べられていました。最初は大学院の先生かと勘違いしていましたが、先輩方から、企業にもともと務められていて、退職後に博士号を取得され、現在ゼミにも参加し、勉強しながら後輩の院生に助言をされていると伺い、驚くとともに、感銘を受けました。

その後も授業で結城さんと同席しましたが、自分の研究で手いっぱい、結城さんとあまり話ができずにいました。しかし、桜が舞い落ちる春から、雪が降り詰まる冬まで、いつも結城さんは授業にお越しになっていました。

中国では、結城さんのお歳の方は、会社でお勤めの時に一生懸命頑張ってきたので、勤勉な人生の最に、ゆっくり家族と一緒に楽な生活を送るものだと考えられていますが、しかし、結城さんはご高齢にもかかわらず学問的な探求を止めませんでした。

私の修士論文の中間発表の際には、分野の異なる私の課題にも、結城さんも丁寧に資料を収集し、貴重な意見をくださいました。先生たちの指導を加えて、結城さんのご意見のおかげで、無事に修士号取得することができました。

中国に帰国した後も、働きつつ勉強も継続していた中、今年6月、友人たちから突然の悲しいお知らせがありました。結城さんの元気な姿は、今も私の記憶に残っており、大変心が痛みます。

「知財の極意を求め、知識への純粋な探求心」こそが、結城さんの勉学への原動力だったと感じますし、時間、年齢といったことも、結城さんが学問を追求することを止めることはできませんでした。孔子の論語で「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」という言葉があります。ここにいう「道」とは習得した知識ではなく、結城さんのように学問を最後まで追求する精神ではないかと、私は信じています。

これからも、私自身求めることを止めず、「道」を見つけた結城さんを、一生忘れません。

漢詩を通じて今の私の気持ちを表すとともに、ご冥福をお祈り致します。

「祭奠结成老先生仙逝」

朝為紅顏夕埋骨、悉聞江戸晚桜落

今生有涯何足惧、偏渡無涯求不惑